

平成27年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

1 頁

1. 事務事業の概要

完了 評価対象 行計対象

事務事業名 (中事業)	16530 西脇市コミュニティバス運行事業			
基本政策	05 快適な暮らしを支える生活基盤が充実したまち			
政策	02 円滑な移動を支える公共交通			
施策	01 利用者にやさしい公共交通網の整備・充実			
実施形態	補助・負担金			
事業期間	単年度	平成8年度～		
要求区分	継続	予算区分	政策	
事業の実施を市に義務づける国の法令				
有無	なし			
法令名				
予算科目	01-020111-040200			
部名	21 都市経営部	課名	02 総合企画課	
課長名	早崎 育子	T E L	内線	225

2. 対象・目的・内容

事業概要	市コミュニティバスである、しばざくら号・おりひめバスの運行補助を行う。また、利用状況等を見ながら、路線の再編も検討していく。
事業の対象 (誰・何を)	乗合バス利用者、特に高齢者・障害者や年少者などの交通弱者
事業の目的 (どういう状態にするために)	西脇市駅、西脇バスターミナルなど交通拠点間のアクセス機能の強化と、西脇病院など公共施設等への交通手段及び学生の通学手段確保など、高齢者等交通弱者の移動手段の確保を目的とする。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	乗合バス事業者に対して、補助対象系統ごとの経常費用と経常収益の差額を補助金として交付する。 なお、国等の補助金も積極的に活用を検討する。

3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費	事業費の内訳						
		国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源
平成24年度決算額	12,136	0	217	0	0	0	0	11,919
平成25年度決算額	13,308	0	487	0	0	0	0	12,821
平成26年度決算額	13,899	0	523	0	0	0	0	13,376
平成27年度予算額	15,831	0	300	0	0	0	0	15,531

4. 総コストの概算

(単位：千円)

平成26年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成26年度決算額(B)	総コスト(A)+(B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.15	0.00	0.15	1,169	13,899	15,068
事業費の主な用途		補助金			

平成27年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

2 頁

5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指標名	運行補助額				単位	千円
	説明や数式	運行補助額として交付する収支の差額					
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
	目標値			15,831	15,831		
	実績値	13,308	13,899				
活動 指標 ②	指標名					単位	
	説明や数式						
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
	目標値						
	実績値						
成果 指標 ①	指標名	乗車人員				単位	人
	説明や数式	1便当たりの乗車人員					
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
	目標値			2.11	2.28		
	実績値	1.82	1.95				
成果 指標 ②	指標名					単位	
	説明や数式						
	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
	目標値						
	実績値						
実績・成果等の説明	<p>平成26年度については、路線変更等改正がなかったため、運行補助額・乗車人数ともに昨年度とほぼ同じ状況にある。しかし、平成24年10月改正時からみると、1便当たりの乗車人数が増加傾向にあるため、現時点では望ましい状態であると言える。</p> <p>また、平成27年3月に、西脇市の公共交通整備の今後の方向性を示し交通弱者などが移動しやすい総合的な生活交通を確保するための「西脇市地域公共交通計画」を策定済みである。</p>						

6. 評価

1 次 評 価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	3	実施主体の妥当性	2
	事業の総合評価	直接のサービスの相手方	4	受益者負担の適切さ	4	市民ニーズの把握	4
	説明	継続実施 茜が丘複合施設「みらいえ」のコミバス乗り入れに伴い、今年10月にルート・ダイヤの再編を予定している。現在バス会社と調整中ではあるが、利用者の利便性を図るため、しばざくら号はバザールタウンを経由する路線、おりひめバスは買い物ができる西脇コミセンを経由する路線改正を検討中である。今後も地域公共交通計画に基づき、利用動向等に応じて、適宜ダイヤや路線の見直しを行っていく必要がある。					
2 次 評 価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	3	実施主体の妥当性	2
	事業の総合評価	直接のサービスの相手方	4	受益者負担の適切さ	4	市民ニーズの把握	4
	説明	改善・見直し コミュニティバスの運行については、平成25年8月に大型商業施設が撤退したにも関わらず、平成26年度においては1便当たりの乗車人数は増加している。また、本年度10月には、茜が丘複合施設「みらいえ」への乗り入れや、買い物ができる商業施設をルートに取り入れるダイヤ変更を予定されており、利用者のニーズに則した取組が評価できる。しかし、運行時間別の利用者数には大きな偏りがあり、屋下がりの運行については乗車がないことがしばしばあることから、乗車の少ない時間帯における乗車率を上げる対策に努められたい。					